

2022 年度卒業生の動向

目的：卒業生の就業と看護の実践状況を明らかにすることで看護基礎教育において教授に役立てる

対象：A総合病院に勤務する2022年度卒業生の就職先の看護師長（看護部キャリア支援を担当している看護師長）

方法：聞き取り調査

内容

1. 2022 卒業生の就業状況（2022 年 4 月から 2023 年 3 月）
離職及び休職状況とその理由と対応
2. 2022 卒業生の傾向
3. 2022 卒業生の看護の実践状況
4. 大学に期待すること

結果

1. 2022 卒業生の就業状況（2022 年 4 月から 2023 年 3 月）
 - 1) A 総合病院就職者 57 名（1 年間の離職及び休職者 10 名（17.5%））
 - 1 年以内の離職者 3 名
 - 1 年以内の休職者 7 名
 - 2) 離職の理由
 - ・メンタルヘルスの不調
 - 3) 休職の理由
 - ・適応障害、抑うつ状態
 - ・複数の患者受け持ちによる多重課題への対応困難
 - ・本人が感じる同期との比による精神的な落ち込み、劣等感、自尊心の低下
 - 4) 適応できない人への対応
 - ・業務調整（受け持ち患者数の調整）
 - ・指導体制の調整（チーム変更・指導者の変更）
 - ・セルフケアサポートの受診
 - ・診療内科受診
 - ・部署移動
 - ・復職支援プログラムの支援

2. 2022 卒業生の傾向

卒業生の傾向として肯定的に捉えることができない（自尊心が低い）、承認されることに慣れていない、自信がもてないなどがある。また、病院の方針として、2021 年度は自立を 1 年あるいはその看護師に合わせ 2 年としていたが、2022 年度から 8 カ月としたことが離職及び休職者の増加に影響していることも考えられる。

3. 2022 卒業生の看護の実践状況

- 1) タイムマネジメントができず多重課題がこなせない
- 2) 自己学習調整力が低い
- 3) 自己効力感が低い（他者と比べる）
- 4) 心身の健康管理ができない（学生時代から症状があるも受診していない）

4. 大学に期待すること

- 1) 急性期に対応できる看護師の育成／実習での看護実践の強化（実習期間が短い）
- 2) 学生時代から健康管理ができるよう生活指導
- 3) 報告・連絡・相談ができるよう看護師の育成

その他

- ・ 専門学校卒に比べ大学卒の看護師の方が定着率は高い傾向にある